

富山総局

〒930-0005

富山市新桜町6-18

☎ 076-441-1671

fax 076-441-1674

mail toyama@asahi.com

高岡 ☎ 0766-22-0397

fax 0766-22-0394

魚津 ☎ 0765-22-0141

fax 0765-22-0157

購読・配達のご用は

☎ 0120-33-0843

(7:00~21:00)

広告のご用は

☎ 076-431-8514

折り込みのご用は

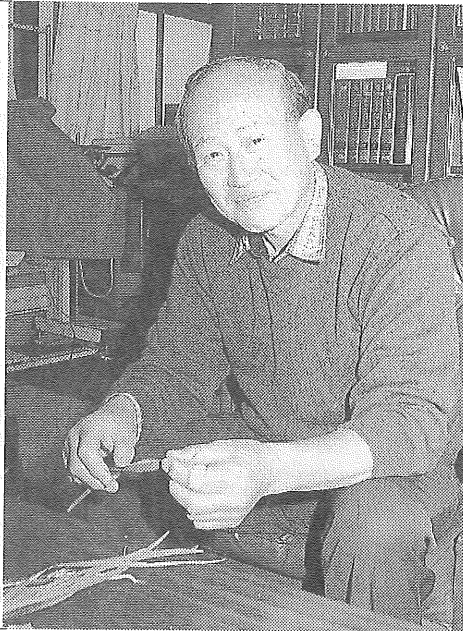
☎ 076-492-1402

# やる気ある農家支援を

## 政権交代

農はどこへ 中

### 養口潔・みのふぁーむ代表に聞く



みのぐち・きよし オーガニック農場&環境コンサル  
タント「みのふぁーむ」(南砺市)代表。地域再生の研究などに取り組む合同会社「地創研」副代表。62歳。

「02年に早期退職し、コメや野菜の有機栽培に取り組み「みのふぁーむ」を始めたきっかけは何ですか  
「それまでは土日中心の兼

業農家。効率優先だった。有機農業に関心はあったが、それまでのやり方では納得したものを売ることができないと思った。04年に有機JAS認証を受け、今は4・5畝の農地でコメや大豆のほか、ニラなどの有機野菜も作り、みそ作り教室なども開いている」  
——若手農家を対象に農業塾を開いています。他分野から農業を目指す若者にとって何が壁になっていますか  
「30代の若手農家らと有機農業や第6次産業について勉強している。私が有機農業を始めたころは周囲から冷たい目で見られたこともあった。今も農業を目指す人への障壁は多い。コメは農地を手に入れるのが難しい。資金が調達

第6次産業 農家が農作物を出荷する(第1次産業)だけでなく、収穫した作物を使って加工品を作ったり(第2次)、観光客を集めて収穫体験をしてみたり(第3次)するなど、生産者が生産から加工、販売・サービスまで総合的に展開すること。三つの数字をかけると6になることから作られた造語。

しにくいという問題もある」  
——自民党政権が効率化による大規模農業を目指した背景には、食糧自給率が低迷し、輸入に頼らざるを得ない日本の食糧事情があります  
「国際情勢などを考えれば、アメリカのように効率化された大規模農業を目指すのも理解できる。だが、効率化へシフトした結果、多くの農家が大量に作れるものを選んでしまし、そうでないものは輸入頼みになってしまった」  
「国は小規模農家にも、大規模化を目指す農家と同じような政策の網をかけたが、その結果、能力のある小規模農家をつぶしてしまった。農業の現状を見る限り、これまでの農業政策は行き当たりば

たりという感が否めない」

——これから農業を目指す人たちが小規模農家の人たちが、他産業並みの収入を確保し、経営者として農業で自立することはできますか  
「それには6次産業を目指すべきではないかと思う。私が考えるモデルは、農地が10畝前後で家族経営。コメだけでなく野菜も作り、インターネットを使って直販など手がける。健康ブームで有機野菜も需要が高まっている」  
——そのために、国に望む政策は

「まず補助金は出さなくてよい。厳しさを乗り越える農家が育たない。自己責任でやる農家を育てるべきだ。もちろん融資は必要。農地も借りられやすくするなど、障壁を取り払うことをして欲しい」  
「ただ新しく直販を始めるのは難しい。技術やマーケティングなどで意欲のある農家をサポートするのも大切だ」  
——民主党政権にはどのようなことを期待しますか?  
「民主党のツルネン・マルティン議員が中心になり、議員立法で有機農業推進法(超党派の議員連盟により06年に制定)を成立させてくれた。小さくてもやる気のある農家に注目した。民主党政権になり、意見が言いやすくなるのではという期待はある」

「農業は自然の中で生きることで得られる癒やしや、自然に逆らわず、恵みを受ける生き方など思想的な一面も秘めていると思う。私たちが求めている『農的な生き方』を目指している。農業に対する哲学があれば、国の農業政策もしっかりしたものになるのではないだろうか」